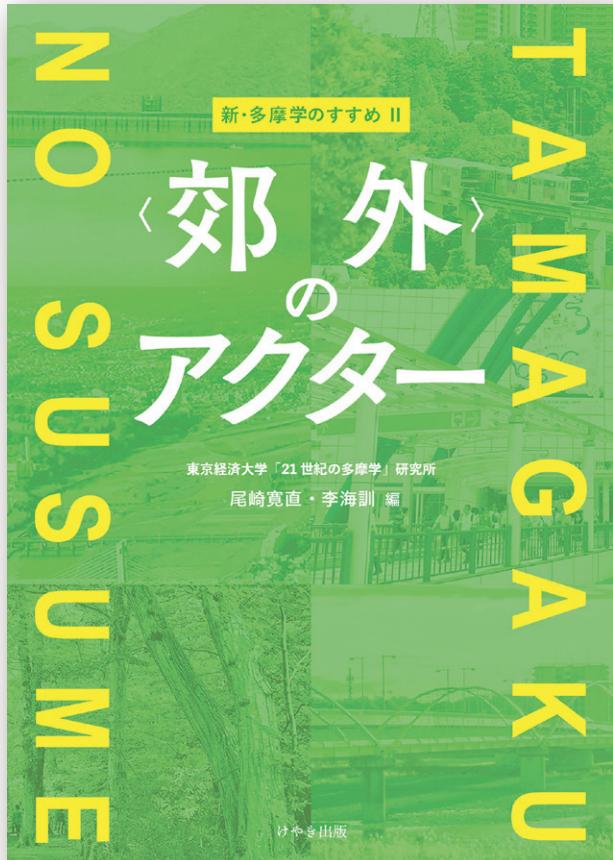


新・多摩学のすすめ II 〈郊外〉のアクター

2026年
2月14日
発売



ロングセラー『多摩学のすすめ』の最新刊！
『新・多摩学のすすめ 〈郊外〉の再興』—その続編

多摩エリアで働き、消費し、納税しているのはどのような人々なのか。本書は、住民を中心とした多様なアクターと、雇用、交通、商業、住宅、自然環境などの生活基盤・生活環境との関係性に着目し、統計だけでは捉えきれない「生活者」としての住民像に迫ります。多摩エリアを単なる郊外やベッドタウンとしてではなく、人々の仕事や日常、人生の時間が重なり合う「暮らしの舞台」として捉え直し、その固有の価値と可能性を探る一冊です。

シリーズ第1弾
「新・多摩学のすすめ 〈郊外〉の再興」
も好評発売中！

ISBN : 978-4-87751-617-8



ISBN : 978-4-87751-657-4 C0030 210 × 148 mm · 424P 定価:3,000円(税別)

目次

序 章 なぜ「住民」なのか：
均質的な地域社会の変容と本書の課題

第1部 多摩地域のアクターと住民像

- 第1章 消費者：多摩地域における買物環境と消費者
- 第2章 納税者：平準化されても差異のある豊かさ
- 第3章 働く者：多摩地域の働く人々と地域労働市場
- 第4章 高齢者：今日の高齢者像とウェルビーイング
- 第5章 障害者：岩橋恵美子の就学闘争から「ふつう」を問う
- 第6章 外国籍住民：多様な実像と共生の課題
- 第7章 多摩地域住民の幸福度：区部との比較分析

第2部 多摩地域の住宅開発と公共交通

- 第8章 多摩ニュータウンの成立と地域の変容

第9章 土地神話の終焉と多摩地域不動産のゆくえ

第10章 多摩地域の開発と鉄道・バス事業の展開

第11章 多摩地域におけるタクシー事業：区部との比較

第3部 多摩地域の住民と

生活環境に紡ぎ出される関係性

- 第12章 自主管理型コミュニティの地域づくり：武藏野市を事例に
- 第13章 地域資源を活用した観光地への試み：炭焼きの村から観光地へ
- 第14章 都市における公園の価値を引き出すパークマネジメント
- 第15章 地域社会における住民と動物の関係性の変化

終 章 多摩地域の固有価値